

カ月を調査の期間として実施した。

(3) 調査事項

- ① 各教科、道徳、特別教育活動、学校行事等の実施時間数
- ② 中学校における選択教科別履修生徒数
- ③ 教員の研修・研究会参加、事務出張等の状況
なお調査結果については41年度において報告書として刊行する予定である。

4 全国小・中学校学力調査

(1) 調査の目的

① 小学校

小学校の第5学年および第6学年の児童の社会ならびに理科についての学力の実態をとらえ、教育課程に関する方策の樹立、学習指導の改善に役立つ資料とする。なお調査の結果は、教育条件の整備にも利用するものとする。

② 中学校

義務教育の最終段階である第2学年および第3学年の生徒の国語、社会、数学、理科および英語についての学力の実態をとらえ、教育課程に関する方策の樹立、学習指導の改善に役立つ資料とする。

なお調査の結果は、教育条件の整備にも利用するものとする。

(2) 調査の内容

① 調査の対象

小学校については、県内小学校のすべて、および5、6年在籍の分校を各々1校と見なし、これらの総学校数の20%が層化無作為抽出法によって標本校として選ばれ、調査の対象となった。

中学校については、県内中学校のすべて、および2、3年在籍の分校を各々1校と見なし、これらの総学校の20%が層化無作為抽出法によって標本校として選ばれ、調査の対象となった。

小学校

	5年	6年
標本校 132校	8,944人	9,332人
自主参加校 526	35,336	37,474
計 658	44,280	46,806

中学校

	2年	3年
標本校 69校	10,817人	11,506人
自主参加校 274	40,246	44,444
計 343	51,063	55,950

小・中とも私立3校を含む

② 実施した期日、教科およびテスト時間

小学校

昭和40年6月16日(水)

全国一せいに、同一問題で1教科45分で、次の時間割によって実施した。

月日	学年	I 9時05分～ 9時50分	II 10時10分～ 10時55分
6月16日 (水)	第5学年 第6学年	社会	理科

中学校

昭和40年6月16日(水)および17日(木)

全国一せいに、同一問題で社会、数学、理科は50分、国語および英語は55分で、次の時間割によって行なった。

国語および英語の問題の一部はラジオ放送(NHK第2)による調査を行ない、また時間は第2学年、第3学年とも共通問題で10時15分から10時30分の15分間である。

月日	学年	I 9時05分～ 9時55分	II 10時15分～ 11時10分	III 11時30分～ 12時20分
6月16日 (水)	第2学年 第3学年	社会	国語	理科
6月17日 (木)	第2学年 第3学年	数学	英語	

(3) 調査の結果

① 平均点、標準偏差

公立小学校

学年	教科	本平均点	県標準偏差	全平均点	国標準偏差
5年	社会	50.0	21.2	50.3	20.7
5年	理科	44.4	17.2	44.7	16.5
6年	社会	54.4	20.1	56.0	19.6
6年	理科	44.8	16.3	44.9	15.8

公立中学校

学年	教科	本平均点	県標準偏差	全平均点	国標準偏差
2年	国語	50.4	18.6	54.6	18.8
2年	社会	29.4	16.8	32.6	18.1
2年	数学	38.9	25.5	48.0	27.3
2年	理科	31.2	15.6	34.0	16.9
2年	英語	41.2	23.8	51.5	26.0
3年	国語	50.4	21.2	55.7	21.9
3年	社会	29.1	18.4	32.5	20.4
3年	数学	39.3	26.4	49.2	27.9
3年	理科	28.8	14.7	31.8	16.3
3年	英語	38.0	20.6	45.0	23.1

② 本県成績の全国的位置

各学年各教科によって、問題の質や量が異なっているため、それぞれの得点で比較することは適当でない。このよう

な場合、比較に便なるよう標準点に換算する方法がとられている。

ここでは標準点として学力偏差値を用いた。

小学校

学年	教科	学力偏差値
5年	社会	49.9
5年	理科	49.8
6年	社会	49.2
6年	理科	49.9